

教科	農業	科目	野菜	単位数	2 単位	学年	3 年	コース	E 野菜専攻
使用教科書	野菜(実教出版)			使用副教材等	なし				

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成する。		
評価の観点	知識・技能 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	思考・判断・表現 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	主体的に学習に取り組む態度 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるような自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	・定期テスト ・実習での取り組みの様子 ・実習記録簿 ・ワークシート	・定期テスト ・実習での取り組みの様子 ・実習記録簿 ・ワークシート	・実習記録簿 ・授業・実習での取り組みの様子 ・ワークシート

担当者からのメッセージ	・実習が主となる授業となります。社会でも必要とされる基本的な挨拶、時間厳守などの習慣を身に付けてください。 ・自ら学ぶ姿勢(自主性)、協力してお互い高め合う姿勢(協働性)を意識して取り組んでください。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価基準
1	4 7	○オリエンテーション ・圃場の作型を理解する。 ○園芸システム科で栽培する春作の野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する野菜に関する実習を通して、野菜の生育と生理および施設園芸に関する知識・技術を養う。 ○序章「野菜」を学ぶにあたって 1. 野菜とプロジェクト学習 ・野菜を学ぶ意義を学習する。 ・プロジェクト学習の進め方を理解する。 ○第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 1. 野菜の生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 人工環境における栽培技術 ・野菜の種まきから収穫までの生育過程と生理的特徴を理解させ、栽培と環境についても理解する。 ・施設栽培などの人工環境における栽培技術の基礎について理解する。	(知):知識・技術 (思):思考・判断・表現 (態):主体的に学習に取り組む態度 座学 ・主な野菜の各生育段階における特徴を理解できる。(知) ・野菜の生育が温度や光、土壌環境などの違いによって大きく変わること理解できる。(知) ・野菜の好適な栽培環境について理解できる。(知) ・実習での疑問から実験した結果をデータ処理して図表を作るなど分かりやすく表現できる。(思) ・観察した様子から順序よく変化を説明できる。(思) ・野菜の各生育段階における生育特性にいろいろな疑問を持ち、それらを解決しようとする。(態) ・野菜の生育が温度や光、土壌環境などの違いによって大きく変わること興味を持ち、成長と環境との関係について探求しようとする。(態)
		○園芸システム科で栽培する秋作の野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する秋作の野菜に関する実習を通して、個別の野菜の生育と生理についての知識の習得および栽培管理技術を養う。 ○第4章 果実を利用する野菜の栽培 1. トマト ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解する。 ○第2章 野菜生産の役割と動向 4. 野菜の安全性 ・JGAP活動の取り組みに関連付け、安全な野菜生産のために、多くの取り組みが必要であり、それが重要であることを理解する。	実験・実習 【知識・技術】 ・栽培などの学習を通して基本的な事柄について正しく理解し、知識・技術を身に付けている。 ・目的に即した実験や調査などを的確な方法で行い、栽培と環境との関係を正しく把握し、理解している。 ・実験で得られたデータを的確に処理できる。 【思考・判断・表現】 ・栽培や学習した事柄を元にして、総合的に考えることができる。 ・実験や調査したことを元にして、分析したり、論理的に考えたり、科学的に判断できる。 ・疑問や問題点に対する解決方法や実験方法を考えることができる。 ・データ処理で得られた結果を的確に表現できる。 【主体的に取り組む態度】 ・学習内容に対して興味・関心を持ち、探求しようとする。 ・学習内容をより深く理解しようとする。 ・問題点を提起したり、学習に意欲的に取り組む。
2	9 12	○園芸システム科で栽培する野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する野菜に関する実習を通して、個別の野菜の生育と生理についての知識の習得および栽培管理技術を養う。 ○第4章 果実を利用する野菜の栽培 2. 温室メロン ○第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 4. ブロッコリー ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解する。	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、観察できる。(知) ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが説明できる。(知) ・安全・安心な野菜の生産には、さまざまな方法があることが理解できる。(知) ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができる。(思) ・栽培の評価が理論的に行える。(思) ・野菜を栽培することが、圃場の周りの環境や景観にどのような影響を与えるかを考えられる。(思) ・果菜類(特にトマト)の特性を理解しようとする。(態) ・実践課題について、問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組むことができる。(態) ・安全・安心な野菜の生産方法などについて関心を持ち、調べようとする。(態)
		○園芸システム科で栽培する野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する野菜に関する実習を通して、個別の野菜の生育と生理についての知識の習得および栽培管理技術を養う。 ○第4章 果実を利用する野菜の栽培 2. 温室メロン ○第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 4. ブロッコリー ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解する。	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、観察できる。(知) ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが説明できる。(知) ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができる。(思) ・栽培の評価が理論的に行える。(思) ・温室メロンやブロッコリーの特性を理解しようとする。(態) ・実践課題について、問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組むことができる。(態)
3	1 2	○園芸システム科で栽培する野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する野菜に関する実習を通して、個別の野菜の生育と生理についての知識の習得および栽培管理技術を養う。 ○第4章 果実を利用する野菜の栽培 2. 温室メロン ○第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 4. ブロッコリー ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解する。	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、観察できる。(知) ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが説明できる。(知) ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができる。(思) ・栽培の評価が理論的に行える。(思) ・温室メロンやブロッコリーの特性を理解しようとする。(態) ・実践課題について、問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組むことができる。(態)
		○園芸システム科で栽培する野菜に関する実習 ・園芸システム科で栽培する野菜に関する実習を通して、個別の野菜の生育と生理についての知識の習得および栽培管理技術を養う。 ○第4章 果実を利用する野菜の栽培 2. 温室メロン ○第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 4. ブロッコリー ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解する。	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、観察できる。(知) ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが説明できる。(知) ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができる。(思) ・栽培の評価が理論的に行える。(思) ・温室メロンやブロッコリーの特性を理解しようとする。(態) ・実践課題について、問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組むことができる。(態)